

**注意！**

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制（農業使用基準等）等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

# 農作物技術情報 第8号 野菜

発行日 平成25年10月31日  
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部  
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ（電話 0197-68-4436）

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます  
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 来年の安定生産に向けて（残さの処分、土づくりの実行）
- ◆ 施設野菜 省エネ対策技術の積極的な導入
- ◆ 露地きゅうり キュウリホモプシス根腐病総合対策について
- ◆ 寒締めほうれんそうハウスの開閉による生育調節と品質を確保した適期出荷
- ◆ 促成アスパラガスの低温遭遇時間を考慮した適期掘り取りによる収量向上

## 1 生育概況

- (1) 果菜類や露地葉菜類の収穫はほぼ終了に向かい、出荷量は少なくなっています。
- (2) 雨よけほうれんそうは、台風18号等の影響で出荷量がやや少なくなっていますが、現在の生育はほぼ順調です。シロオビノメイガ、アブラムシ類、コナダニが一部の圃場で見られています。寒締めほうれんそうの種は10月中旬まで行われ、現在生育中です。

ねぎは、台風26号の影響で茎葉部の折損が若干見られますが、生育は概ね順調です。べと病、さび病、黒斑病が全域で散見されています。

## 2 技術対策

### (1) 栽培跡地の整理と来年への準備

栽培が終了した圃場内の作物残さは適切に処分し、翌年の病害虫発生の原因とならないようにしましょう。

特にきゅうり褐斑病が毎年多発する圃場では、支柱やワイヤー、かん水チューブなどの資材に付着した分生子が翌年の発生源になっています。残さの後片づけをしっかりと行うとともに、資材消毒を行い翌年の発生源を排除しましょう。

また、本年の栽培状況を振り返り、来年の安定生産に向けた土づくりを実践しましょう。（図1参照）

### (2) 野菜畑での施肥管理、土づくりについて

県内の野菜畑では、可給態リン酸や交換性カリウムなどの肥料成分において、土壤改良目標値を満たした圃場が多く、中にはリン酸が無施用でもよい水準まで蓄積している事例もあります。

施肥管理にあたっては、土壤改良目標値を満たした圃場では、作物による肥料成分の吸収量や、浸透水による養分の溶脱量など、「土壤から持ち出された肥料成分を施肥で補給する」補給型施肥基準を適用するとともに、土壤診断結果によって土壤養分の過剰が明らかになった場合には、減肥基準

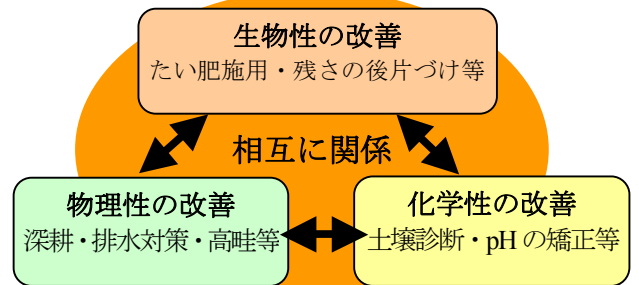


図1 土づくりで重要な三つの性質

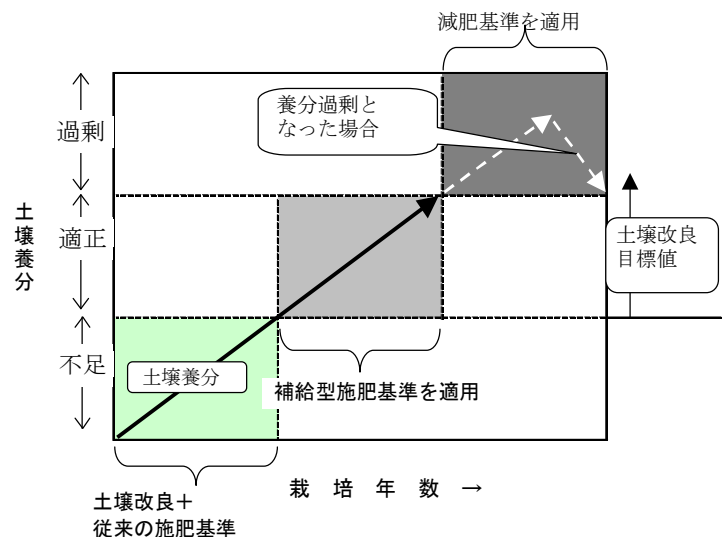


図2 土壤養分に応じた施肥管理基準の適用

に基づき適正な施肥管理に努めましょう。

### (3) 施設野菜

近年の燃油価格の上昇により、施設野菜の生産コストの増加は農家経営に大きく影響しています。施設野菜においては、省エネルギー対策の積極的な導入を図りましょう。対策として、[1] 暖房装置の点検・整備、清掃による暖房効率の低下防止、[2] 温室の被覆資材の隙間からの放熱防止、[3] 内張資材等の導入による保温性の向上や温室内の温度ムラの解消、[4] 作物・品種の特性をふまえた生育ステージに合わせた適正な温度管理の実施、などが挙げられます。

### (4) 露地きゅうり

本年は5～6月の乾燥から一転して7月の曇雨天という気象経過から、初期の根張りが不十分な圃場が散見され、生理的な要因を含めた様々な萎れが発生しました。次年度対策のために萎れの主な要因を特定しておきましょう。

また、岩手県ではH25年3月より「岩手県におけるキュウリホモプシス根腐病総合対策」として、本病の発生圃場のみならず未発生圃場においても発病を未然に防止する対策を進めています。(図3参照)

土壌分析を踏まえた適正pHへの改良、排水対策などの基本管理は、全ての生産者に当てはまる内容ですので、翌年の栽培に向けて今一度自分の栽培を振り返り改善を進めましょう。

技術内容の詳細については、最寄りの農業改良普及センター、JAへお尋ね下さい。

### (5) 寒締めほうれんそう

ハウスの開閉により、適切な温度管理を行い、出荷できる大きさまで生育させます。従来多く栽培されていた「朝霧」より伸長が遅い品種(「冬霧7」「雪美菜」など)も導入されていますので、品種の特性に応じた管理を心がけましょう。

寒締めは、ほぼ収穫できる葉長になった時点で、ハウスの入口やサイドビニールを開放し、1週間程度10℃以下の寒気にさらして行います。十分な低温に遭遇する前に収穫すると品質が劣ることが懸念されますので、出荷時には最大葉の葉柄の絞り汁のbrix糖度が8%以上になっていることを確認してから出荷しましょう。

### (6) 促成アスパラガス

地上部から貯蔵根への養分転流は茎葉が完全に黄化するまで続いています。刈り取りは茎葉が十分に黄化してから行いましょう。

また、十分に低温に遭遇した株を利用することで、収量が増加しますので(図4参照)、5℃以下の低温遭遇時間を考慮して掘り取り時期を決定しましょう。

10月24日までの県内の主なアメダス地点の5℃以下の低温遭遇時間は次表のとおりです。

栽培面積が大きい場合には、掘り取り作業及び伏せ込み床の準備を計画的に進めましょう。

伏せ込み後に、伏せ込み床内の温度を急に上げると収量が少なくなる場合があります。

岩手県におけるキュウリホモプシス根腐病総合対策

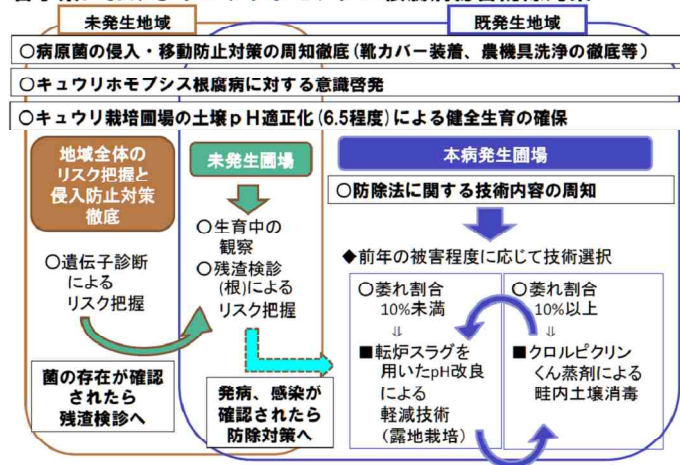


図3 岩手県におけるキュウリホモプシス根腐病総合対策

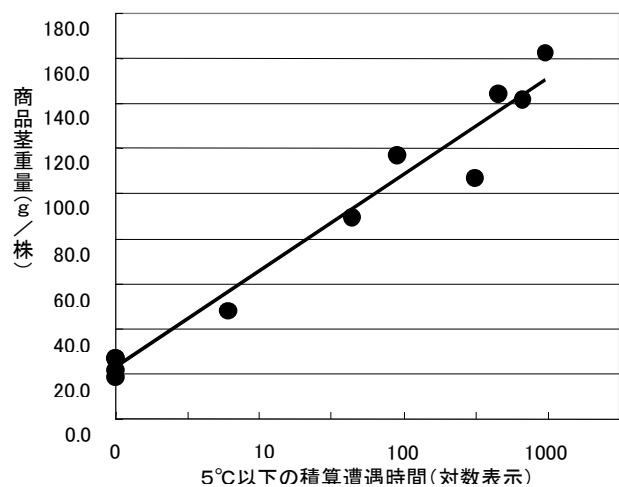


図4 掘り取り前根株の低温遭遇時間と商品茎重量との関係 (商品茎: 5g以上の若茎)

1 週間程度は無加温とし、その後、徐々に温度を上げるようにしましょう。  
ハウス内の保温対策を万全にし、加温コストをできるだけ低減しましょう。

表 5℃以下積算遭遇時間(10月24日まで)

アメダス地点	二戸	奥中山	盛岡	北上
5℃以下積算遭遇時間	50	61	17	7
90時間到達見込み*	10月30日	10月30日	11月18日	11月21日

\* 今後、昨年と同じ気象推移となった場合に5℃以下遭遇時間90時間(株重800gの株から100gの収量が見込まれる)に達する月日

農作物技術情報の25年度定期発行は今号で終了となります。  
気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。  
※ 発行時点での最新情報に基づき作成しております。  
※ 発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は秋の農作業安全月間  
慣れと油断が事故のもと いつもの作業もまず確認!**

中央農業改良普及センター・県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。